

住職の佛教史 浄土宗(3)

法然の説く教えは専修念佛という新しい救済方法であり、浄土宗の教義を体系的に確立した法然四十三歳。この年をもって浄土宗開宗の年としている。法然の名は大原問答（後に天台座主となる顕真を始め、学僧三百余人が法然の浄土宗について談じたのを聞く）により法然の名は一躍高まり、庶民貴族問わず帰依する者がふえた。さらに京都周辺だけでなく北陸東海にも流布していった。

しかし旧佛教教団比叡山として興福寺から専修念佛禁止の訴えを起こされた。

更に弟子が院の女房と密通したとの嫌疑により弟子は死罪、法然も還俗のうえ四国に流罪となった。四年後に帰京を許されたがその翌年八十年の生涯を閉じた。

次回は法然なき後法嗣はどのように継がれていったか、真鸞、一遍はどのような思想を展開していったかについて述べていきます。

## 鎌倉佛教 浄土宗

(3)

法然の説く教えは、専修念仏という新しい救済方法であり、浄土宗の教義を体系的に確立した。法然四十三歳、この年を持って浄土宗開宗の年としている。

法然の名は、大原問答（後に天台座主となる顕真を始め学僧三百人余が法然の浄土宗について談じたのを聞く）により、法然の名は一躍高まり庶民貴族を問わず帰依するものが増えた。さらに京都周辺だけでなく北陸東海にも流布していった。

しかし、旧佛教教団比叡山、そして興福寺から専修念仏禁止の訴えを起こされた。更に弟子が、院の女房と密通したとの嫌疑により弟子は死罪、法然も還俗の上、四国に流罪となった。四年後に帰京を許されたが、その翌年、八十年の生涯を閉じた。

次回は、法然なき後、法嗣はどのように継がれていったか、真鸞、一遍はどのようにしてその思想を展開していったかについて述べていきます。